

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフで宝寿の家としての理念を作成し、スタッフ会議にて共有し、玄関やスタッフルームに理念を掲げ、常に意識するように心掛けている。	6年前に開所当時に作られた理念を見直し、利用者が自分らしく生活できるようにと、職員全員で作成した。「どなたでも気軽に来られ、利用者様が自分らしく心安らぐ居場所になるよう支援します」を意識しながら、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流の機会を設けている。ボランティアの方も日常的に受け入れ交流しており、地域の避難訓練に参加したり、当施設の避難訓練にも地域の方から参加して頂いている。	地域の行事に積極的に参加し、地域の方々と交流の機会を設け、常に地域の一員であることを心掛けている。定期的にボランティアの方が訪問し、一緒にお茶を飲んだり、話をしたり、利用者の方々と交流を図っている。また施設の避難訓練に参加した地域の方々からは、改善に向けたアドバイスをもらい地域全体で運営している様子が垣間見られた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の当施設の広報誌に認知症についての知識を盛り込んだ欄を設けている。年に1回であるが地域の方々に向け認知症についての正しい理解を得られる研修会を施設主催にて開催している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、ケアサービスの実施状況や取組について報告し、評価を頂いている。その後、スタッフ会議にて頂いた評価をもとに検討しサービスの向上につなげている。	隔月に開催している「運営推進会議」では、利用者、ご家族の参加をはじめ行政、包括、町内会長、民生委員が参加し、事業報告、ケアサービスの実施状況や取り組みについて報告し、評価を頂いている。またその評価については、スタッフ会議で検討・見直しを行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に上越市高齢者支援課の担当者より毎回出席を頂き、協力関係が来ている。適宜適切な助言を頂き、サービスの向上に努めている。	隔月に開催している「運営推進会議」に、上越市役所高齢者支援課の担当者が参加し、適切な助言を頂きサービスの質の向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等身体拘束に繋がるケアは行っていない。常に見守り、言葉の拘束にも繋がらないよう全職員が研修会に参加し取り組んでいる。	職員自身が日々のケアの中で、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し拘束のないケアを実践している。また、玄関の施錠について安全な暮らしを守りつつ、自由な暮らしを支援するため定期的に研修を実施して、職員の意思統一を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	所属グループの権利擁護委員会に職員が1名参加し、スタッフ会議にて復命し職員間で共有している。言葉の拘束にも繋がらないよう他事業所との研修会にも参加し、意識を高めるように取り組んでいる。	法人全体で虐待についての研修を行い、職員の意識統一を図っている。また、権利擁護委員会に職員1人が参加し会議の内容を職員で共有するとともに、常に「これは虐待に当たらないか」を確認しながら対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者が居られるため、理解出来ている。更に学びを深められるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人同様不安に思っておられるご家族に安心して利用して頂けるよう丁寧な説明をしている。納得して頂けるよう十分な時間を割いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者やご家族の代表として其々1名づつ出席して頂き意見や意向をお聞きする機会を反映させている。また、利用者には普段の生活の中から、ご家族へは毎月のお便りを通じて意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	隔月に開催している「運営推進会議」では、利用者、ご家族の参加をはじめ行政、包括、町内会長、民生委員が参加し、なんでも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催し、その際は全職員が集まり意見や提案を聞く機会となっている。話し合いの良い機会となり、反映に繋がっている。	管理者は日ごろから職員の要望やアイデア、提案を聞く機会を設け、日々の業務に反映している。会議はもちろんのこと普段の何気ない会話の中からもヒントをもらい、日々改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、正職員は半期ごとに評価を行い目標を設定し向上心を持って働けるような環境となっている。また、臨時職員には年に1回契約更新の際に評価を行い目標設定し、やりがいをを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて研修スケジュールが勤務年数に応じて確立しており、適宜全員が研修に参加している。また、地域密着型事業所6か所で共同して研修会を設け、サービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内地域密着型の6事業所の施設長会議にて、毎月研修会の計画や相互事業所の取組について情報共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に感じている事がないか、ご本人の気持ちに寄り添い傾聴している。利用者が不安な気持ちでおられる事を感じる事の出来る職員であるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。ご家族が要望等を言いやすいような雰囲気づくりや言葉かけに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用される前の事前面接時に、ご本人やご家族の意向を確認し初期のサービス利用から必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つておられる力を的確に捉え、その力が十分に発揮できるよう支援している。発揮できる事でやりがいに繋がり、職員との関係が暮らしを共にする者同士の関係性となっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の暮らしぶりを毎月お便りにしてお知らせしている。隔月には写真と共に様子をお伝えしている。普段から、訪問し易い環境づくりに努め、敬老会や忘年会に参加を呼びかけ、多くのご家族より参加を頂いている。ご本人や職員との信頼関係が築けるように努めている。	普段の暮らしぶりを毎月お便りにして、ご家族に伝えている。また、隔月には日頃の表情を写真に収め、本人と家族の絆を大切にしている。日頃から訪問しやすい環境を心掛けており、行事には大勢の家族が参加し楽しめるような工夫を行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や友人が訪ねて来ていただけるように気持ちよく受け入れができるよう配慮している。また、ご家族と一緒に時には職員と馴染みの場所へ外出出来るようにも配慮している。年末には年賀状を各自作成して貰い、送りたい人に送っている。	職員を中心に馴染みの友人や家族が気軽に訪問できるような環境づくりに配慮している。個別に行きたい場所を聞き取り、可能な限り外出する機会を設けている。また、自分の意思を伝えられない方に関しては、居室担当の職員の聞き取りを下に、本人の意思を尊重する仕組みも確立されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるようにリビングの配席を工夫したり、職員が仲介役となり、関係性を築けるように関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去され、他の施設に移行された場合は面会に訪れる程度の交流に留まる。次の施設へスムーズに移行出来るような支援や相談には応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりの意向や思いを把握するように努めている。意志表出が困難な方には表情や普段の仕草等で把握できるよう努めている。	職員目線ではなく、利用者がどう思っているかを考えて意向等把握するよう努めている。対応方法等、職員間で日常的に意見を交わすことのできる雰囲気があり、日々の支援に大いに活かされている。職員間で考えた理念を基に日々振り返り、課題の抽出、よりよいケアの質の向上を図っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これからの施設での暮らしには、今迄の暮らし方や生活環境等の把握は大変重要であると考え、入居前に住んでおられる所へ訪問し確認している。	家族や知人・友人、かかわりのあるサービス等を通じて聞き取り行い、情報の収集を行っている。入所後は身の回りの様子や環境整備等にかかわることで相互の信頼関係の構築に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	システムにて情報共有を行っている。時にスタッフルームにて掲示物を利用したり、毎月のスタッフ会議にて確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、ご本人の意向や状態を踏まえ作成している。よりご本人がご本人らしく心安らかに安心して過ごして頂けるように作成している。毎月、居室担当者がモニタリングを行い、3か月に1回総括している。	利用者が長く気持ちよく暮らせるように、また職員もそのための支援を行えるよう言葉掛けやかかわりを密に行うようにしている。そのうえで現在の支援や今後の支援計画に反映するようにしている。支援方法の変更の他、日常の関わりの中で見えた軽微な変化等もシステムに残し、職員間で共有を図り日常的に支援に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の日々の様子やケアの実践等システムに入力し、全職員が情報共有している。毎月、居室担当者がモニタリングを行い、計画作成者が3か月に1回総括し見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員でご本人やご家族のニーズを捉え、柔軟な対応に心掛けている。ご家族の協力を頂いたり、ボランティアの方の訪問を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に1回ボランティアの方の訪問や踊りや草取りに来て頂いている。老人会の方々からは年に1回であるが、全国奉仕の日に併せて草取りに来て頂き交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し、受診に繋げている。協力病院との連携もスムーズであり、定期的に受診し適切な医療を受けている。	本人や家族の意向を確認しかかりつけ医や協力病院と連携している。病状によっては母体施設の看護師等、多職種に相談したりアドバイスを受けることもでき、利用者にとって適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は勤務していないが、グループ内に看護師長へ相談できる体制は整っており、適宜助言を頂いている。協力病院の看護師との連携もスムーズであり、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に関係者と情報を共有し、スムーズに協力病院や施設へ移行できるよう相談や関係づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。法人代表者が認知症の進行により重度となった場合は対応可能な施設へ移行するようにとの考えの為、入居時にその旨をご家族に説明させて頂いている。施設移行の際は、十分な話し合いの場を設けている。	法人の方針により、本人にとってふさわしい環境で生活をしてもらいたいとの意向から終末期支援は行っていない。家族には入所時に説明を行い、理解を得ている。状態の変化があった時や施設移行の際には母体施設含め、関係各所と連携を図り、広い視点で本人の支援が行えるよう努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、応急処置の講習会に全職員が参加し講習を受けている。また、ノロウイルスの対応についても感染症委員会に職員が参加し、全職員にてシュミレーションを行っている。	全職員が毎年講習会に参加し講習を受けている。感染症委員会の内容は参加した職員が伝達講習を行い、知識や手技等習得するようにしている。職員入職時に急変時マニュアルを配布し、個々の知識や技術、意識の向上にも努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を実施。1回は町内の方々より協力を頂いての訓練を実施している。また、町内の避難訓練にも要援護者として協力している。	年3回の避難訓練はすべて夜間想定で行い、人手の少ない状況でも対応できるよう訓練を行っている。地域との関係も良好で、訓練の際には相互で声を掛け合い相談したり協力を得ながら訓練を行っている。有事の際には母体施設にて食料の備蓄等もあり、バックアップ態勢も整っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として向き合い、人格を尊重しプライバシーに配慮した言葉掛けや対応をしている。	職員全員で考えた理念に基づき支援を行うことを心がけており、普段から支援方法についても意見交換を行い支援に繋げている。入職時に行動規範について説明を受ける他、その後もキャリアアップ研修等、継続して研修を受講し学びを得る機会があり、日々の支援に活かされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分に意向や思いを表出出来る方はなるべく思いに沿った行動が出来るように支援している。表出できない方には、ご本人の思いに寄り添い表情や仕草で確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが、お一人おひとりのペースに合わせて支援するように努めている。時と場合にはできない場面もあるが、職員の意識のなかで常に希望に沿うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔が保てるように意識しながらご本人の好みに合わせた色やデザイン、髪型等に支援している。ご本人に「どれがいいですかね」と選択できるような声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める際に好みの物をお聞きしている。特に誕生日のメニューはご本人に食べたいものをお聞きして提供している。一人ひとりの持っておられる力を見極めながら出来る事をして頂き、調理や後片付けをして頂いている。	食事の買い物の機会は毎日あり、献立もその日に決めて調理することができる。野菜の自家栽培を行っており、季節をふんだんに感じ味わうことができる。食事の準備や後片付けも皆で行い、食事中も手作りの食材や料理等の話題で言葉の掛け合いが絶えず笑顔あふれる活気のある時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはグループの管理栄養士に毎月確認してもらい、助言を頂き改善に繋げている。食事やお茶時以外にも適宜水分補給を行い確保できるように支援している。水分摂取が難しい方には味を変えたり工夫をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。見守りが必要な方には適宜行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり、利用者の行動や仕草を観察して声掛けを行っている。なるべく一人でできる事はしていただくよう声掛けや見守りを行っている。すぐに紙パンツに移行せず、布パンツとパットで様子を観察する等ご本人の排泄がなるべく自立できるように支援している。	排泄支援はデリケートな部分であるため、利用者の自尊心に配慮しながら、さりげなく支援を行うようにしている。排便に関しては本人の状態にも大きくかかわってくることがあるため確認したりするが、利用者それぞれの様子や支援の方法によって個別の対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、食事や飲み物等の提供を工夫している。日中夜間を問わず水分補給に努め、散歩や体操にて運動の機会を提供し便秘の解消に繋げるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴して頂いている。ご本人が楽しんで入浴できるようご本人のタイミングを見計らって声掛けし、入浴して頂いている。	広く明るい浴室は開放感がある。毎日、入浴の機会があり、職員は利用者の様子に合わせて浴槽の出入りなど出来ない所をさりげなく手伝い、入浴が本人にとって楽しい時間となるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりに合わせてリラックスできる居室の環境を整えている。時には眠れない方には温かいミルクをお出しする等休息に入る前にもリラックスできるような関わりをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がお一人おひとりの服薬している薬や目的には理解している。また、変更があった場合にも情報共有しているが、副作用までとなると理解が不足している点があり、今後把握するよう努めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って過ごして頂けるよう、今迄暮らしてこられた中で得意な事や楽しみの持てる事を不安無く出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のゴミだしや近所への散歩、日光浴等季節を考慮しながら提供している。また、季節を感じて頂けるよう季節に合った外出の行事を提供している。6月は個々に行きたい所や食べたいもの等をお聞きし、居室担当者と個別外出を行った。ご家族とも一緒に出掛けられたり、ボランティアや中学生の交流もある。	日常的な外出としては畑の造作や手入れのほか、近所へ散歩に行くなど気分転換の機会がある。バーベキューや流しそうめんなど、季節に応じたイベントの計画のほか、バスハイクなどの外出計画もあり楽しみの一つとなっている。個別の外出では利用者それぞれの希望に応じて外出計画を立て、食べたいものを食べるなど精神面の充実を図る一つの機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人本部の方針にて個別にお金を所持して頂いていない。立て替え払いとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話やお手紙のやりとりは自由になっている。希望があればご本人から電話をして頂いている。年1回であるが、年賀状を自分で書いて頂き、ご本人に出したい方に送っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	我が家に居るような環境となるよう一般の家庭に近い環境となっている。居室にも馴染みの品物を持参くださるよう入居時にお願いしている。リビングには皆で作成した大きなカレンダーを掲示し日付がわかるように、廊下には季節の行事の写真を掲示に季節がわかるように工夫している。	廊下には日常の活動の様子が表された写真や季節感を感じさせる通信のほか、催しに出演した作品なども所狭しと飾られ楽しそうな様子が多数窺える。リビングは入口から奥まで見渡せる広く明るい作りになっている。日常的に使用する手作りの見やすいカレンダーもあり、食事を楽しむほかゲームをしたりテレビを見たり、笑い声の絶えない憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の居室では寛げるよう馴染みの物を持参されており、お互いの居室を訪問される時もある。お互いに交流できるようソファや椅子の位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	四畳半と手狭は空間となっており、持ち込まれる品々も限られたものとなっている。手狭な中にもその方が寛げる空間となるよう居室担当者と協働して取り組んだ居る。	なじみのある家具や本人にとって使いやすい調度品などを持ち込んでもらっている。家族との写真や、本人の軌跡を映すものなども飾られている。本人が過ごしやすく、気持ちが上向きになるような環境のきっかけとなるよう職員は協力して支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやリビング、浴室等わかるように掲示しており、わかりやすく過ごしていただけるよう工夫している。		